

概要

東京調布市にあるチマッティ資料館の収蔵品をデジタルアーカイブ化し、資料保存収集の支援と、文化庁文化遺産オンラインへの登録を目的とした卒業研究である。

情報工学科で学んだ知識を実践に生かして多岐にわたる膨大な収蔵資料を活用できるようにしたい。今回は手始めに、チマッティ神父作曲の楽譜と音源データの保存から着手した。さらにデータ化した資料はWebで検索できるように実践に即するように制作した。

1. はじめに

デジタルアーカイブの実践を試みたチマッティ資料館は本校の経営母体であるサレジオ会の貴重な資料館である。様々な方面で活躍したチマッティ神父に関する資料が多数展示されている。神父は1000曲近く作曲をしていた事実がある。今回はこの楽譜資料を対象にアーカイブ化した。当然のことながら、原譜は損傷してしまう可能性があるため一般公開はされていない。この卒業研究作業の取り組みにより広く情報は伝えられることになる。

2. 制作機材

詳細は論文参照。主な機材を記す。

- ・スキャナ (EPSON GT-X750)
- ・Filemaker pro 11 (Filemaker 社製)
- ・Microsoft Silverlight

3. 制作工程

- 1 段階. 楽譜のスキャニング
- 2 段階. スキャンした画像を組み込む
- 3 段階. 資料情報の入力

詳細については、

1. スキャニングでは収蔵資料と出来る限り近似するように試験を繰り返し、変わらないように取り込みの入力条件を検討した。
2. データベース表示画面に画像を組み込む時に画像をただ貼るのではなく、利用者の利便性を考え Web ブラウザで Silverlight を使いズームイン・アウト・全画面表示を出来るように制作した。この改良により、楽譜資料以上に神父研究資料になりうる可能性を引き出した。
3. 資料館館長コンプリ神父の要望から、各曲に

ついて、特徴を教えていただき、背景等情報を加える事により一層資料価値を高める努力をした。歌詞の日本語訳は卒業研究作業の成果である。すべての曲に基本的事項とその曲について詳しい情報を載せている。

4. 結果(検索画面)

下の図1は制作した検索画面である。詳細は論文を参照してほしい。



図1. デジタルアーカイブ検索画面

5. おわりに

楽譜資料 80 頁のデジタルアーカイブ化が完成した。楽譜としての保存目的とするか、神父直筆等を含めた資料価値を追求するか考察し、精細部までの解像力を事前実験して直筆資料をも目的に解像力については特に配慮した。

さらに保存資料の点数を増やせば文化庁「文化遺産オンライン」に登録できる資料的価値は十分満足すると関係者からアドバイスをいただいた。今後広く公開できる足がかりとなった。作業は「制作過程作業マニュアル」として継続できる様式にまとめられた。デジタルアーカイブの高解像度画像の定義として 1000dpi 以上が望ましいと調査結果からの指摘を維持し実践にたえる資料を残したい。

調査機関・参考文献・資料協力

- [1]チマッティ資料館 <http://www.v-cimatti.com/>
- [2]「デジタルアーカイブ」とは何か 鈴木 卓治 日本色彩学会 2007年
- [3]文化庁 <http://www.bunka.go.jp>